

令和5年度 公共事業評価委員会 「審議資料2」修正概要一覧

整理番号	対象事業	頁	該当箇所	審議時の意見・質問（趣旨）	種別	修正概要		
1	河川事業共通 (No. 8, 12 以外)	P2	3) 評価対象事業の位置づけ ア) 法定計画	—	追記	事業計画の位置付けを明確にするため、「法定計画」を追記 (No. 8 目久尻川は計画策定中のため対象外) (No. 12 矢上川は予め記載済のため対象外)		
2	河川事業共通	P5	事業を巡る社会経済情勢 ア) 地域の状況	地域の状況で「避難場所」や「地域防災拠点」等が位置するというだけでよいか。どういう意図でここにどう書くのか。	修正	事業の必要性の視点を補足し文章を修正		
3	河川事業共通 (No. 3, 4, 5, 10, 11)	P6	総合的な効果 イ) 安心・安全・利便性	要配慮者とはどういう人なのか。数字の根拠が分かるようにした方がよい。	追記	要配慮者の内訳及び算出根拠を追記 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>要配慮者：65歳以上の高齢者、7歳未満の乳幼児 妊婦、障がい者</td> </tr> <tr> <td>算出根拠：国勢調査の人口データから算出</td> </tr> </table> (No. 6, 7, 8, 9, 12 (10/27 審議分) は記載済だが誤字訂正 「非難」→「避難」)	要配慮者：65歳以上の高齢者、7歳未満の乳幼児 妊婦、障がい者	算出根拠：国勢調査の人口データから算出
要配慮者：65歳以上の高齢者、7歳未満の乳幼児 妊婦、障がい者								
算出根拠：国勢調査の人口データから算出								
4	河川事業共通	P6	総合的な効果 イ) 安心・安全・利便性	① 総合的な効果の「安全・安心・利便性」の項目の中で、「本事業を実施することによってこれらの被害を防止することができる」と書かれており、防止となると被害ゼロをイメージさせる。災害が無くなるというのは、確率現象を意識していない表現になっている。 ② 「少なくない確率で計画規模を超える降雨の発生も想定されるが一定の効果が期待でき」と書いているが、「少なくない確率で」と主観が入っているのでやめた方がよい。 また、「一定の」というのも少し行政用語すぎるので、「相応の」ぐらいにした方がよい。	修正	① 減災という視点を踏まえ、「被害を軽減」に修正 (No. 12 は 11/6 に反映済) ② 「少なくない確率」を削除、「一定の」を「相応の」に修正		
5	河川事業共通 (No. 12 以外)	P6	「整備前後の浸水範囲 及び被害状況」図	災害が無くなるというのは、確率現象を意識していない表現になっている。	追記	図のタイトルに、対象降雨の確率規模を追記 (No. 12 は 11/6 に反映済)		
6	No. 5 不動川	P7	事業の進捗状況	便益が大きく変化した場合、主たる原因を記載した方がよい。	修正	浸水範囲にある農地や農業用施設の実態を踏まえ、想定被害額を算定したことにより便益が減少したことを追記		
7	No. 5 不動川	P3	5. 事業実施にあたって 配慮した項目	自然石を使ったブロックを使ったからといって、自然生態系の保全がされ、再生・保全がされたと書くのは言い過ぎではないか。	修正	「自然生態系の再生・保全や景観を考慮」から「自然環境や景観を考慮」に修正		
8	No. 8 目久尻川 No. 6 小出川	P8	対応方針（案）	「多自然川づくりに配慮した整備も望まれており」と第三者が望んでいるような少し弱い表現なので、「整備を進める必要がある」と言った方がよい。	修正	必要性を明確にするため、「整備を進める必要がある」に修正		
9	No. 12 矢上川	P9	これまでの課題に対する 取り組み状況 イ) 事業費	主な費用増のうち、どの費用が一番、想定外だったのか。表に概算額を入れた方がよい。また、増額全体の何%に相当するのかも記載すると重みも分かってよいと思う。	追記	主な費用増に関する内容を記載した表に「概算額」及び「全体に占める割合」を追記		

整理番号	対象事業	頁	該当箇所	審議時の意見・質問（趣旨）	種別	修正概要
10	No. 13 小田原海岸（前川地区） 高潮対策事業	P6	総合的な効果	<ul style="list-style-type: none"> 国土保全上重要なことを記載する。 B/C に現れない効果も記載する。 	追記	左記内容を反映。
11	No. 14 相模川流域下水道事業	P6	費用対効果 総合的な効果	<ul style="list-style-type: none"> 現在実施している改築更新や耐震化といった事業の効果を資料に記載し、安全な運転のためにコストをかけていることを謳うべきである。併せて、ネットワーク幹線の効果も記載した方がよい。 追加でやることによって得られる便益といった部分の評価がはっきりと分からないので改善すること。 	追記	<p>下水道事業では、施設の改築更新や地震対策といった事業の便益を切り分けて評価することはできないため、ウ) その他の効果として、「下水道機能を維持するため、老朽化した施設の改築更新や地震対策を進めるとともに大規模地震時等に下水の相互融通が可能となるネットワーク幹線を整備することで、安定的な下水道サービスを提供する。」を追記した。</p> <p>なお、本事業は事業期間が長期に渡るため、計画期間までの残りの事業について、参考までに費用便益比を追記した。</p>
12		P4	5. 事業実施にあたって配慮した項目 2) 整備に関する配慮の3つ目、左下写真	ユニバーサルデザインに関して、ハード整備にあたっては、車椅子利用者やベビーカー利用者などの当事者の意見を聞いて取り入れることで、新たな気づきがあるので重要だと思う。また、ハード整備のみならず、心のバリアフリー的な発想や、ピクトグラム等の言葉を越えたマーク等を取り入れることを検討してほしい。	追記	園内のピクトグラム表示の取組や、ホームページにおける多言語対応について追記した。
13	No. 15 津久井湖城山公園 都市公園整備事業	P5 P7	(1) 事業の必要性に関する視点 ② 事業の投資効果等 (2) 事業の進捗の見込みの視点 ① 事業の進捗状況	—	修正	<ul style="list-style-type: none"> 費用対効果の総便益（B）に誤記があったもの。 計算過程において、一部資料（時間価値）が更新されておらず、再計算した結果、直接利用価値（217億円→256億円（39億増））、B/C（7.8→7.9（0.1増））に修正が生じた。
14		P6	総合的な効果 イ) 自然資源の保全 ウ) 地域への貢献に対する効果 エ) 災害時の役割 オ) 早期効果発現	<ul style="list-style-type: none"> 全体がかなり自然度の高い非常に貴重な森林であり、歴史的な価値も含めて、自然の豊かさのPRにもっと取り組んでほしい。 総合効果について、項目しか書いておらず淡々とし過ぎているので、文化的な豊かさについて想像力を発揮して表現してほしい。 現在の地形をできるだけ改変しない整備には賛成であり、ヘリコプターの離着陸上整備にあたり、現況の改変に関してどの程度配慮しているのか。 再評価では、できたところから少しずつでも部分供用して早期効果の実現に取り組んでいることと、この5年間どういう工夫をしてきたかというところをしっかりと記述した方がよい。 	修正 追記	<ul style="list-style-type: none"> 自然度の高い貴重な自然資源の保全の取組について追記した。 小倉地域の土地の改変なく、防災拠点として利用することが可能であることが分かるよう文言（平坦地）に修正した。 早期効果発現を追記し、できたところから部分供用して早期効果の実現に取り組んでいることを記載した。 総合的な評価について、全体的に記載を見直し、取組に対する効果がより伝わるよう修正した。
15	全事業共通	P8	対応方針（案）	『重要性は依然として高い』だと、それほど高くなってきている印象を受けるから『現在もなお極めて高い』とした方がよい。」	修正	「重要性は依然として高い」→「重要性は現在も極めて高い」に修正した。